

聖書と科学との正しい関係

鳳恵みキリスト教会 2018年1月8日(祝)
クリエイション・リサーチ 安藤和子

天と地の諸法則をわたしが定めた(エレミヤ 33:25)

序

完璧なものとして創造されて、祝福に包まれて人類史は始まった。サーペント(輝くもの・サタン)の罠に、いつひっかかったのかは不明であるが、神のようにになりたいという誘惑にまんまとはめられてしまった。

[I] 主の領域へ侵入した人類への主の裁き

(1) 人類の罪:原罪

「園のどの木からでも思いのままに食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるその時、あなたは必ず死ぬ。」(創 2:17)

信じられない愛と祝福に包まれて始まった人類の人生は、何事もなければ老いを知らず、死ぬこともなく、自由で幸せな日々を永遠に生きているはずであった。

(2) 第一の裁き:死

たった一つの禁止事項を守ることができず、主の命令に背いて知識の木の実を食べてしまった！
不老不死に創造された人が、いつか年を取り、死ぬことになった。

知的、霊的洞察力への誘惑、自分が神、真理・正義の基準を自分が決定したいという自我の主張がむくむくと頭をもたげてしまったのである。

一人のアダムによって罪がこの世界の中に入って来、罪の結果、死が入って来た。そして、すべての人が罪を犯したので、死は全人類に広がっていった。(ローマ 5 : 12、創造主記)

(3) 第二の裁き:ノアの洪水

世界は荒れ狂い、これ以上許せないと全人類、全世界への主の裁きが降った。恵みの救いの箱船を主ご自身が設計して下さった。どんな豪雨、荒浪に揉まれても沈まずに、乗船者を守る箱船。

20世紀の建築学が保証する安定な船の構造である。・・・主の設計だから当然であるが。

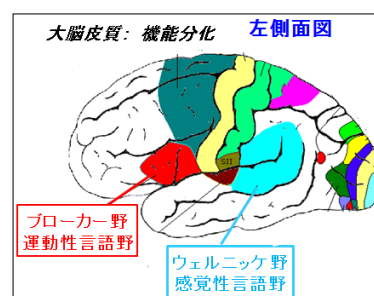
当時のノアたちは設計図にしたがって船を建造する知識・技術を持っていた。

(4) 第三の裁き: 共通語の剥奪・言語の混乱(創 1:1-9)

当時、人類は一つの言語だけを使っていた。

脳の言語野→

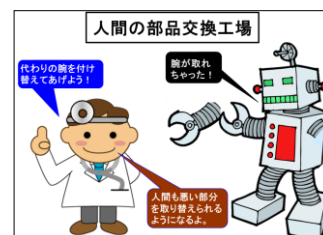
われわれは団結して町を作り、天にまで届く塔を作って、名を挙げよう。こうしてやれば何でも出来る、創造主なんか恐ろしくない。わたしは罰として彼らの精神生活の元になっている言語を乱し、お互いに通じないようにしてしまおう。」こうして、主は彼らを罰し、彼らはお互いに意思が通じなくなり、それぞれ別々の所へ移住(創 11:6-8、創造主記)



自分の力を自分の神とする者は罰せられる。(ハバ 1:11)

人が神の領域に立ち入ることは罪の行為として罰せられた。

「神の領域」に到達しようとした恐るべき野望を打ち砕こうと、主は言語中枢をかき乱された。人類は意志の疎通のための言語を主によって奪われた。



(5) 主の領域への侵入:20~21世紀のバベルの塔

科学、技術の発達に伴い、人は神の領域に侵入して、それを科学の発展だと賞賛するようになった。
 新しい元素の作成、生命の領域に侵入 クローン羊・ドリーなどクローン動物の創製。主の創造である生命、特に主の御姿を映された人の命を、「病気を治す」という大義名分を振りかざして命に介入しようという試みであることを忘れ、人間が臓器の寄せ集めの如くに考える思想が社会に蔓延し始め、ロボットの部品交換するような思想が広がった。
 iPS 細胞の将来に関しては未知であり、この分野の研究者の哲学は千差万別のようなものである。

[II] キリスト信仰・聖書と科学との争い

「キリスト信仰・聖書は非科学的である、特に創世記はただの神話に過ぎない。こんな奇蹟はあり得ない。」と、科学者をはじめとして方々からやり玉に挙げられてきた。聖書と進化論者との様々な関係を図に示した。両者の考え、関係は時代と共に推移している。

進化論者・一般の世の中

- 1) 聖書は非科学的・奇蹟は間違い
- 2) 聖書の創造も奇蹟も非科学的。科学は絶対
- 3) 聖書は道徳書として認める。奇蹟はダメ
- 4) 科学的であるかどうか判断基準

聖書

何が何でも聖書は正しいと主張していた
 聖書は正しくないけれど・・・と、平身低頭
 創世記は神話だと認める。聖書は非科学的
 聖書は科学的で、科学で証明できる。



他にも様々な論点があるが、これらは異なっているように見えて、重要なことで奇妙に一致している。
 進化学者・科学者・世の人々、そして聖書に立っている人々も、意識しているか、無意識下であっても、非常に多くの人々が「科学的であることが正しい」と信じている。
 創造論信仰に立ち、聖書 66 巻を主の著書であると信じている人々が、「聖書は科学的であり、聖書を科学で証明できる」と信じる間違いをしていることがある。科学を絶対基準として、科学で聖書を判定するという根本的に間違った哲学に立っている。科学的という呪文・科学信仰・呪文に呑まれ進化論漬け
 科学は正しく、絶対！ 進化論は科学的！ 進化論は正しい！ 聖書は非科学的！ 聖書は間違っている！

[III] 聖書と科学

この世の人々と同じように、聖書信じる信仰者も、被造物の営みである「科学」を「絶対」の段階にまで引き上げ、科学で聖書を判定するという逆さまの論理に囚われてしまった。
 「聖書は科学的である」と反論を試み、聖書の記述を次々と科学で説明することに腐心した。さらに、深みにはまり込み、聖書の全てを科学で説明できるはず、聖書は科学的だと結論づけ、自らもそれを信じた。
 混迷を極めている聖書と科学との正しい関係、真の関係を明確に納得することが、キリスト信仰にとって非常に重要であるので、原点に立ち戻って学びたいと思う。



知識もなく言い分を述べて、摂理を暗くするこの者はだれか。わたしが地の基を定めたとき、あなたはどこにいたのか。あなたに悟ることができるなら、告げてみよ。(ヨブ記 38 : 2, 4)

神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。(ローマ 1:20)

[IV] キリスト信仰の出発点・全能の主による創造

(1) 万物を創造された主

はじめに神が天と地を創造した。(創 1:1)

無いものを有るものようにお呼びになる方。(ローマ 4:17)



(2) 自然法則を定められ、科学を超越しておられる創造主

天と地の諸法則をわたしが定めた(エレミヤ 33 : 25)

ああ、神、主よ。まことに、あなたは大きな力と、伸ばした御腕とをもって天と地を造られました。

(エレミヤ 32:17)

神が天を堅く立て、深淵の面に円を描かれた(箴言 8:27)

上記のみことばは、文学的にのみ理解されていたが、自然科学の進展に伴い、文学的な鑑賞だけではなく自然科学的理解をすることが可能になり、主が定められた法則で護られている現実の宇宙を描写しているものとして理解され始めた。

* 大きな力で天と地を創造された

* 地球は球形であること

* 支えるものがないのに、空中に浮かんでいる

しかし、「何故、どのようにして」という部分は、科学的には解明不可。科学の対象ではない。

[V] 自然科学とは

(1) 観察・実験出来るものが対象

自然界の対象や過程に関する科学研究又は知識

手法・実際: 目に見えるもの、数値化できる対象を取り扱い、法則性を見出す

刺激: 痛・熱・冷・重・痒は観測可能な電気信号となり、体内を走り脳に伝達される

生物学・物理学・天文学・化学など。数学や哲学等の抽象的又は理論科学とは区別

(2) 自然科学・社会の間違った理解

* 土台である哲学抜きの「知的探求・脳の活動を楽しむだけの学び」が自然科学という間違った思想が社会に横行。

* この間違った“自然科学”が、「絶対に正しく真理」という「底なし沼・蟻地獄」に陥り、「科学的」ということが社会の「正義の錦の御旗」になってしまった。

* 「創造・聖書」は、創造者という証明できない形而上学的な存在を前提にしており、非科学的であると非難された。

* 「科学的でない＝間違い」という大いなる誤謬が、日本を、世界を駆け巡った。「聖書は非科学的、だから間違い」という非難にキリスト教会は動揺し、呑み込まれ、そして遂に自身のものになってしまった。

(3) 科学は間違わないか?

* 科学は万能でも、不変でも、絶対でもない

* 人間の行う研究は、試行錯誤し、間違い、間違いに気づいたら訂正して時代と共に変化・進歩する。

* 社会科学、人文科学、神学、聖書解釈、自然科学も、人間の営みは全て、間違い可能性を持っている。

* 聖書及び自然科学をまず教会(クリスチャン)が正しく認識し、創造主の著書に対する自信を回復し、両者の関係を正すことが極めて重要。

(4) 本来の自然哲学・自然科学・・・Natural Science / Philosophy

- * 本来は、自然、本性に関する哲学、神の作品、神の法則、神が創造なさった世界について学ぶ
- * 人間の本性の分析を含むこともあり、神学、形而上学、心理学、道徳哲学をも含む。
- * 形而上学的思索(哲学・世界観・死生観)が前提にあり、その上に立って研究をするのが自然科学研究である。
- * かつては、一般的な意味での哲学と大差はなかった。

主の導きにしがたって、すなわち聖書の哲学の土台の元に自然科学研究を行うと、植物も動物も種類にしたがって創造されたという主の御言葉が正しいことが、「科学」という形而下の言葉で理解出来るようになる。そして、自然に主を崇め、賛美するようになる。

[VI] 結語

目を高く上げて、だれがこれらを創造したかを見よ。この方は、その万象を数えて呼び出し、一つ一つ、その名をもって、呼ばれる。この方は精力に満ち、その力は強い。一つももれるものはない。(イザヤ 40:26)



*** 参考文献 ***

- * CD 「進化か創造か」 講演のCD、講師:安藤和子
 - * 「ダーウィン・メガネをはずしてみたら」(証などエッセイ集)安藤和子著 (いのちのことば社)
 - * 安藤和子のホームページ&ブログ <http://andowako.jp> <http://blog.andowako.jp>
 - * CRJのサイト: <http://www.sozoron.org>
 - * 絵本「せかいのはじまり」 安藤和子著・神谷直子絵
 - * 絵本・電子書籍「ノアの洪水」 安藤和子・坂井陽子
 - * 「偶然ではありえない 進化論の真実」 安藤和子・山本哲也著(福音社)
- 講演依頼その他問い合わせ: ando@sozoron.org

電話: 0774-64-0804 ファックス:0774-64-0805